

パキスタン

500kV送電線昇圧事業



本事業により設置した変圧器（ムルタン変電所）

[借款概要]

承諾額/実行額	12,200百万円 / 9,354百万円
借款契約調印	1982年3月
借款契約条件	金利2.75%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1989年3月

[事業概要]

パキスタン北部の水力発電所と南部地域を結ぶ送電線のうち220kV区間を昇圧し、500kV送電システムを完成させることにより、南北間の電力安定供給を図るもの。

[評価結果]

パキスタンにおいては、水力発電所を有する北部と南部の間で、豊水期と渇水期に電力を融通するための大電力送電線（500kV）の構築が課題とされていた。本事業はそのような南北間送電線（タルベラ～ファイザラバード～グドゥ）のうち220kVで運転していた区間（ファイザラバード～グドゥ）を500kVに昇圧するものであり、変電所（ムルタン/グドゥ）の建設等を行なった。

本事業の工事は1986年末に完成し、翌年から運転を開始しているが、ムルタン変電所では電力供給量が伸び続け、1996年には事業完成前の約9倍に達するなど、増大する電力供給への対応に貢献している。

また、実施機関である水利電力開発公社（WAPDA）管内では送配電ロス率が1987年以降漸減傾向にあり、本事業で整備された変電設備がこの面でも寄与したものと見られている。

なお、本事業により建設した変電施設の維持管理はWAPDAが担当しているが、同公社の技術力に問題はないものの、経営面では低い料金徴収率の向上等が課題とされており、同国が取り組んでいる電力セクター改革の動向を注視して行く必要がある。